慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	2011年度プロジェクト科目報告会(2012年2月7日 三田キャンパス大学院校舎312教室)
Sub Title	Oral presentations by graduate students in project course 2011
Author	
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2012
Jtitle	Newsletter Vol.18, (2012. 3) ,p.7- 7
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000018-0072

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

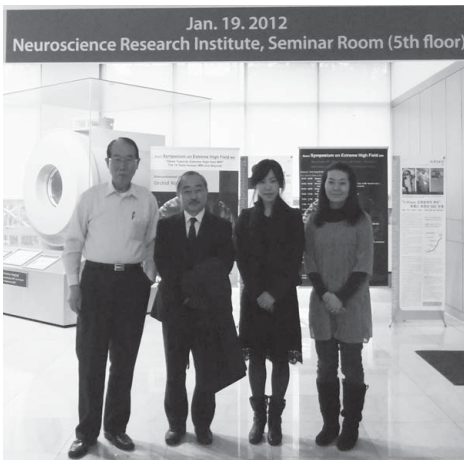
The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

第４回 Keio-Gachon NRI ジョイントシンポジウム

The 4th Keio-Gachon NRI Joint Symposium

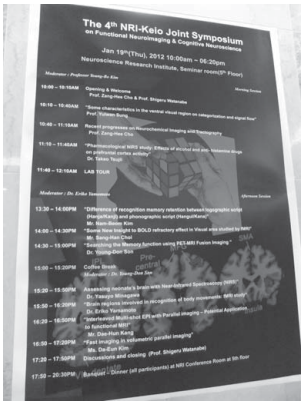
（2012年1月19日　嘉泉医科大学神経科学研究所（韓国））

1月19日に本拠点と嘉泉医科大学のKeio-NRI ジョイントシンポジウムが行われた。毎年行われるシンポジウムであるが、4回目となる今回は韓国・仁川の嘉泉医科大学神経科学研究所（Neuroscience Research Institute: NRI）にて開催された。慶應義塾からは拠点リーダー渡辺茂、Sung Yulwan、辻井岳雄、山本絵里子、皆川泰代の5人が参加した。NRIはMRI、PETなどの開発、その先端的技術を用いた脳画像の応用研究など、比較的医用工学寄りの脳科学が盛んに行われている。その中でも今回は更に進化したPET-MRIを見学することもできた。検査対象者の動きに合わせて装置自体が動くこの新しいPETはNRI所長のZang-Hee Cho教授の開発によるものであり、今回の滞在でも折にふれて核磁気共鳴の歴史ともいえる教授のエピソードを拝聴した。現在は14テスラMRIの建設に向けてプロジェクトが進行中とのことである。



シンポジウムでは慶應側からは、MRIやNIRSを用いた認知神経科学を中心とする発表が行われた。NRIからはZang-Hee Cho教授によるNRIで行われている研究概要の紹介を筆頭に、高磁場MRIの高速度撮像の試み、ハングル・ハンチャ読字と記憶スパンの関係、記憶課題における海馬の活動などの発表が行われた。特にPET－高磁場MRIを用いて、海馬の下位区分（例、歯状回、CA1）レベルでの脳活動を被験者群別に比較するという記憶課題研究は、最先端技術を持つNRIならではの研究であり圧巻であった。これらの研究は認知神経科学、心理学の我々の観点からは、まだ一層の伸び代があるように思えるし、逆にNRI側から見る我々の研究にも技術方法論的に改善工夫の余地があるであろう。本拠点終了後にも何らかの形でお互いの利点を活かした、共同研究、交流が今後とも発展することを強く望む。　（皆川泰代）

The 4th Keio-Gachon NRI Joint Symposium was held on the 19th of January at Neuroscience Research Institute at Gachon University, Korea. Researchers from both institutes presented their study and had a frank and meaningful discussion. We also had a chance of lab tour and were impressed by their cutting-edge techniques of brain imaging such as fusion PET-MRI.



2011年度プロジェクト科目報告会

Oral Presentations by Graduate Students in Project Course 2011

（2012年2月7日　三田キャンパス大学院校舎312教室）

2012年2月7日（火）、2011年度プロジェクト科目報告会が行われた。まず慶應人文グローバルCOE拠点リーダーの渡辺茂教授より挨拶があり、その後、履修者から報告がなされた。最初にプロジェクトEの山本奨氏（音楽作品とは何か）による報告があり、次にプロジェクトCの藤田麻友美氏（メタ言語意識と外国語学習の関係）、大野賢一氏（自伝的記憶と物語文読解後の記憶の構造の検討）、永井敦氏（The Effect of Metalinguistic Ability on Foreign Language Learning）、吉原友美氏（日本語否定接頭辞の語形成）、野中滋氏（課題価値の強調が「教師の仕事内容」に対する興味に与える影響）、桃生朋子氏（中国語母語話者による日本語主語省略構文の獲得）より報告があった。最後にプロジェクトAの江藤啓介氏（Economic Profits Enhance Trust, Perceived Integrity and Memory of Fairness in Interpersonal Judgment）、玉田圭作氏（4コマ漫画の速読と眼球運動）の報告があった。報告終了後、各プロジェクト責任者から講評が述べられ、最後に渡辺教授より履修者に修了証が授与された。

プロジェクト科目があることで、分野の垣根を越えた議論および研究を定期的に行うこができた。プロジェクト科目は今年度をもって一旦終了するが、このような機会は是非継続して設けていきたい。

A debrief session for “Project course 2011” was held on 7th February 2012. After nine presentations were given, each student was awarded a certification of completion.